平成 31 年度　東京都内湾水生生物調査　5 月鳥類調査　速報

●実施状況

令和元年 5 月 22 日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温 21.2～25.6℃、北～南の風が 3.2～4.5m/sec であった。調査当日は大潮で、干潮が 13 時 00 分（19cm）、満潮は 19 時 55 分（178cm）であった（気象庁のデータ）。各地点の概況を下表に示す。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	10:16-11:25	11:55-13:03	14:33-15:38
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	21.2	25.6	25.1
風向	北	南東	北東
風速（m/sec）	3.4	3.2	4.5
備考	海浜公園側は観光船が通過し、海岸には学生と思われる団体が見られた。	漁船一隻が干潟に停泊。採貝が行われていた。南側の護岸にも人が一名立ち入っていた。	北側調査地点の護岸は干潟が干出するほど潮が引いていた。ヨシ原ではオオヨシキリがよくさえずっていた。

●主な出現種等

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
数が多かった鳥類上位 2 種	カワウ(866 羽) アオサギ(31 羽)	コアジサシ(395 羽) カワウ(103 羽)	カワウ(336 羽) ウミネコ(84 羽)
その他の鳥類	カルガモ、サギ類（コサギ等）、キアシシギ、キョウジョシギ、コアジサシ、ハクセキレイ	カルガモ、サギ類（コサギ等）、コチドリ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、ウミネコ、ハクセキレイ	カルガモ、スズガモ、カンムリカイツブリ、サギ類（コサギ等）、ダイゼン、コチドリ、ミヤコドリ、チュウシャクシギ、ホウロクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、ユリカモメ、コアジサシ、ハクセキレイ
備考	・重要種として 5 種を確認（ダイサギ、コサギ、キアシシギ、キョウジョシギ、コアジサシ）。 ・カワウの巣数は第六台場 192 巣、鳥の島 22 巣。営巣地や岩礁で幼鳥を確認。 ・第六台場でアオサギ 14 巣、コサギ 11 巣。アオサギは巣内雛と幼鳥を確認。 ・岩礁でキョウジョシギとキアシシギが観察された。 ・水上の人工物でコアジサシが休息。	・重要種として 7 種を確認（ダイサギ、コサギ、コチドリ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、コアジサシ）。 ・干潟や浅瀬にコアジサシが多く、求愛給餌や交尾等の行動が観察された。 ・干潟でカワウ、ウミネコが休息。 ・護岸や干潟でシギ・チドリ類、サギ類が採餌・休息。	・重要種として 13 種を確認(スズガモ、カンムリカイツブリ、ダイサギ、コサギ、ダイゼン、コチドリ、ミヤコドリ、チュウシャクシギ、ホウロクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、コアジサシ)。 ・干潟でシギ・チドリ類が採餌。 ・汀線付近でカワウ、ウミネコが休息。 ・沖合の干潟でカワウ、ウミネコが休息。コアジサシが海上を飛翔。

●出現種と個体数

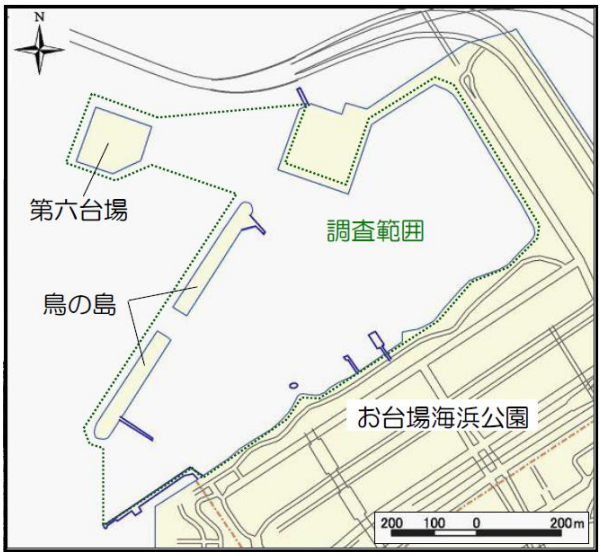
No.	目	科	種名	5月								重要種 選定基準			
				お台場海浜公園				森ヶ崎の鼻	葛西人工渚			文化財[*1]保護法	種の[*2]保存法	環境省[*3] RL 2019 鳥類	東京都[*4] RL 2010 (区)
				第六台場	鳥の島	公園側	合計		範囲内	沖合	合計				
1	カモ	カモ	カルガモ	2	5		7	1	7		7				
2			スズガモ						12		12				留
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ						4		4				留
4	カツオドリ	ウ	カワウ	685	178	3	866	103	214	122	336				
5	ペリカン	サギ	ゴイサギ	2			2								
6			アオサギ	22	9		31	3	12		12				
7			ダイサギ	2			2	2	8		8				VU
8			コサギ	17			17	1	6		6				VU
9	チドリ	チドリ	ダイゼン						2		2				VU
10			コチドリ					2	2		2				VU
11		ミヤコドリ	ミヤコドリ						25		25				EN
12		シギ	チュウシャクシギ						3		3				VU
13			ホウロクシギ						2		2		国際	VU	CR
14			アオアシシギ						4		4				NT
15			キアシシギ		1	2	3	4	23		23				VU
16			ソリハシシギ						3		3				VU
17			イソシギ					1							VU
18			キョウジョシギ	5	2	1	8	14							VU
19		カモメ	ユリカモメ						3		3				
20			ウミネコ					4	82	2	84				
21			コアジサシ			2	2	395		6	6			VU	EN
22	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	1			1	2	2		2				
計 6目9科22種				8 種	5 種	4 種	10 種	12 種	18 種	3 種	19 種	0 種	1 種	2 種	15 種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録　改訂第7版」（日本鳥学会,2012)に従った。
A:大型カモメに分類されるセグロカモメが確認されているので「大型カモメ」は確認種数には数えない。
*1文化財保護法:
*2種の保存法: 国際:国際希少野生動植物
*3環境省レッドリスト: VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧
参照：http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html
環境省自然環境局野生生物課. 2019年. 環境省第4次レッドリスト.
*4東京都レッドリスト2010: CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧、留:留意種
東京都環境局自然環境部. 2010年. 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2010年版.

＜お台場海浜公園＞

〇調査地点の状況

第六台場ではカワウ・サギ類の営巣が見られた。



〇出現種（カワウ）

第六台場で 192 巣、鳥の島で 22 巣、合計 214 巣が確認された。巣内雛が見られたほか、巣立った幼鳥が営巣地や周辺の岩礁で観察された。

〇出現種（アオサギ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギ）

第六台場でアオサギとコサギの繁殖が確認された。アオサギは 14 巣で巣内雛と巣立った幼鳥が見られた。コサギはアオサギに比べて繁殖時期が遅いため、11 巣を確認したが雛は見られなかった。ダイサギとゴイサギは成鳥を観察したのみで、巣の確認はできなかった。

〇出現種（キョウジョシギ、キアシシギ）

第六台場でキョウジョシギ、鳥の島・公園側の岩礁でキョウジョシギとキアシシギが観察された。これら 2 種は東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

＜森ヶ崎の鼻＞

〇調査地点の状況

干潟が広く干出していた。

〇出現種（コアジサシ）

干潟に群れで降りていたほか、海上を飛ぶ個体も多く確認された。干潟では求愛給餌や交尾など繁殖に関わる行動が観察された。隣接する森ヶ崎水再生センター屋上の人工営巣地では、5/18 の時点で成鳥 100 羽、営巣数 56 巣（再営巣 2 巣含む）が NPO 法人リトルターン・プロジェクトによって確認されている。

https://littletern.hatenablog.com/entry/2019/05/19/014926

干潟に降りたコアジサシの群れ

交尾

〇出現種（イソシギ、キョウジョシギ）

イソシギは単独で護岸付近にいるのが見られた。キョウジョシギは小群で出現し、主に護岸で採餌していた。

イソシギ

キョウジョシギ

〇干潟利用状況

干潟ではカワウの群れのほか、ウミネコ、カルガモ、コサギが少数見られた。

カワウ

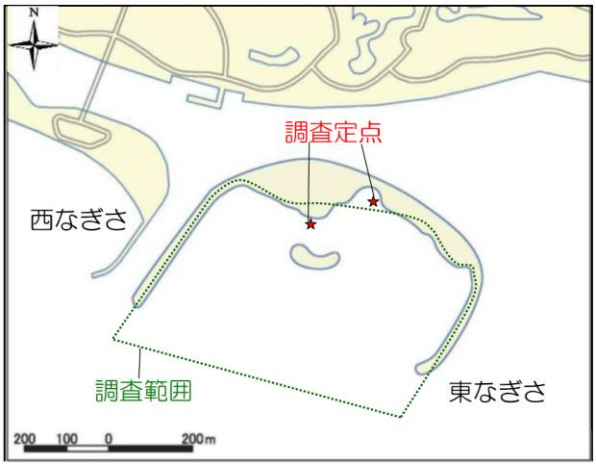
ウミネコ

＜葛西人工渚＞

〇調査地点の状況

東なぎさに干潟が干出し、沖合の三枚洲も干出していた。

西側の地点より南西方向を見る



〇出現種（ホウロクシギ）

干潟で 2 羽が記録され、長いくちばしを使ってカニ類などを採餌するのが観察された。種の保存法で国際希少野生動植物種、環境省レッドリスト(2019)で絶滅危惧種Ⅱ類(VU)、東京都レッドリスト(2010)では絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。

〇出現種（キアシシギ）

合計 23 羽の群れが確認された。干潟や浅瀬を活発に走り回り、採餌していた。汀線付近からヨシ原際までの広い範囲に見られた。

〇出現種（ウミネコ）

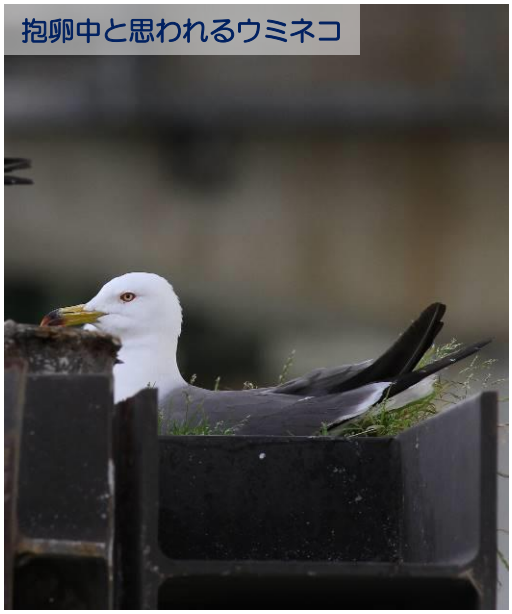
干潟に群れで休息していたほか、浅瀬を飛び回り採餌する個体も少数見られた。繁殖地である砂町運河では主に成鳥が見られるのに対し、葛西人工渚では若い個体が多かった。

＜その他＞

〇ウミネコの繁殖

平成 27 年度 6 月の調査で運河の構造物上でウミネコの繁殖が確認された。今回の調査では成鳥 31 羽が確認され、このうち 20 羽は行動や姿勢から抱卵中と推定されたが、正確な営巣数は不明である。なお、調査前日（令和元年 5 月 21 日）の雨の影響で、22 日 9 時頃の段階では卵が水に浸っていたとの情報がある。

ウミネコ営巣地


抱卵中と思われるウミネコ

＜トピックス＞

－ カワウの成鳥・幼鳥 －

お台場海浜公園ではカワウが多数記録され、特に幼鳥が目についた。カワウは成鳥と幼鳥で羽色が異なるため、外見から区別することができる。成鳥は胸から腹にかけて黒っぽいのに対し、幼鳥から亜成鳥では褐色味が強く白斑が混じる。白色部の範囲には個体差がある。このような幼鳥の羽色は生まれた翌年まで残る。他にも首から上面の色（幼鳥で褐色味が強い）、目の色（虹彩は幼鳥で灰褐色、成鳥は緑色）などに違いが見られる。